第４章　関連文化財群とテーマ

１　関連文化財群を設定するに当たっての考え方

関連文化財群とは、有形・無形、指定・未指定に関わらず、様々な文化財を歴史的、地理的関連性に基づき一定のまとまりとして捉えたものである。また、文化財そのものではないが、文化財を活用する拠点となる博物館や資料館などの博物館施設も関連文化財群の要素とする。一定のまとまりをテーマとして設定することによって、個々の文化財だけでは理解しにくい本市の歴史文化の価値を分かりやすく伝え、新たな価値を見いだし、将来にわたって継承していくことが可能となる。また、関連文化財群は周辺の環境も含めた総合的な保存・活用を目指すため、文化財を活用したまちづくりを行う方策ともなる。

関連文化財群を設定するに当たって、以下の点に留意する。

⑴　関連文化財群を構成する文化財間に歴史的、地理的な関連性があり、一連のストーリーの中で保存・活用に結びつくこと。

⑵　関連文化財群を構成する文化財の中に、現存する文化財を含むこと。

⑶　関連文化財群の核となる文化財は、これまでに十分な調査、研究がなされ、その歴史性や価値を評価されていること。

２　関連文化財群の設定

本市は鈴鹿山脈から琵琶湖に至るまで、山間部、平野部、湖辺部といった地勢に分かれ、それぞれが保有する文化財も多岐にわたる。本市の特徴である多様性を失わないようにテーマ設定することで、その魅力や価値を分かりやすく伝え、文化財の総合的な保存・活用を目指す。そのために本市の歴史文化を特徴づける７つのテーマをそれぞれ関連文化財群とする。

テーマ１　古代の東近江と聖徳太子伝承

テーマ２　蒲生野と天智朝の万葉文化

テーマ３　佐々木六角氏・観音寺城と今堀惣村文書の中世文化

テーマ４　惟喬親王伝承と山の文化

テーマ５　愛知川扇状地と水辺の文化

テーマ６　陸軍八日市飛行場と近代化遺産

テーマ７　近江商人と流通の文化

(1)「古代の東近江と聖徳太子伝承」

【テーマ概要】

大和政権が成立した４世紀の古墳時代前期には、日野川流域に前方後円墳の雪野山古墳が築造されている。湖東地域は大和政権が東国を掌握する上で交通上重要な地域だったため、雪野山古墳の被葬者は大和政権と強いつながりがあった。

５世紀中頃になると、近江では大型の前方後円墳は減少し、代わって大型の円墳や方墳が築造された。木村古墳群の天乞山古墳と久保田山古墳は、近江を代表する中期古墳である。６世紀には、愛知川及び宇曽川流域に渡来人の秦氏が移住し、日野川流域にも多くの渡来人が居住した。彼らは在来の氏族とは異なる形態をなす横穴式石室墳を築造している。

７世紀後半、朝鮮半島で百済が滅亡すると、都（大津宮）が置かれた近江には更に多くの渡来人が移り住むようになった。この時期に渡来人によって建てられた寺院には、小八木廃寺、軽野塔ノ塚廃寺、妙園寺廃寺などがあり、朝鮮半島系の軒瓦が葺かれている。蒲生郡でも、渡来人の安吉氏が建てた雪野寺跡では、渡来系氏族の氏寺に葺かれた軒瓦が出土している。石塔寺に現存する石造三重塔も、移住した百済人が後に建立したと考えられている。また、寺伝によると、百済寺は百済の龍雲寺に模して創建したため、百済寺と呼んだといわれている。

市域には、市神神社、太郎坊（阿賀神社）、石馬寺、瓦屋寺などのように、聖徳太子の伝承を持つ寺社が多く残っている。市神神社に伝わる伝承には、太子が四天王寺を建立するとき、神崎郡の白鹿山（瓦屋寺山）の山麓で瓦を作り、難波津に運んだとしている。このとき、瓦屋寺を創建するとともに民家を数百戸置き、事代主命の像を刻んで人々に交易の方法を教えたとしている。また、石馬寺は聖徳太子が伽藍建立地を探しに当地へ訪れたとき、乗っていた馬が立ち止まったため松につなぎ、寺院建立地を見いだして戻ってきたところ、馬が石に化していたので石馬寺と呼んだとしている。このように聖徳太子の伝承を持つ寺院、神社が市内には 20 箇所以上も存在する。

太子信仰が発展した背景には、この地域に仏教を信仰する渡来人が多く居住していたことと関連する。近江には７世紀に 60 数箇寺に及ぶ寺院が建立されているが、湖東地域には特に多くの寺院が建立されており、聖徳太子とのつながりを生む要因になったと推測される。また、聖徳太子は天台宗の根本経典である法華経の注釈書「法華義疏」を著わしており、市域に残る天台寺院が太子信仰に一定の役割を果たしたものと推測される。

市神神社（八日市本町）

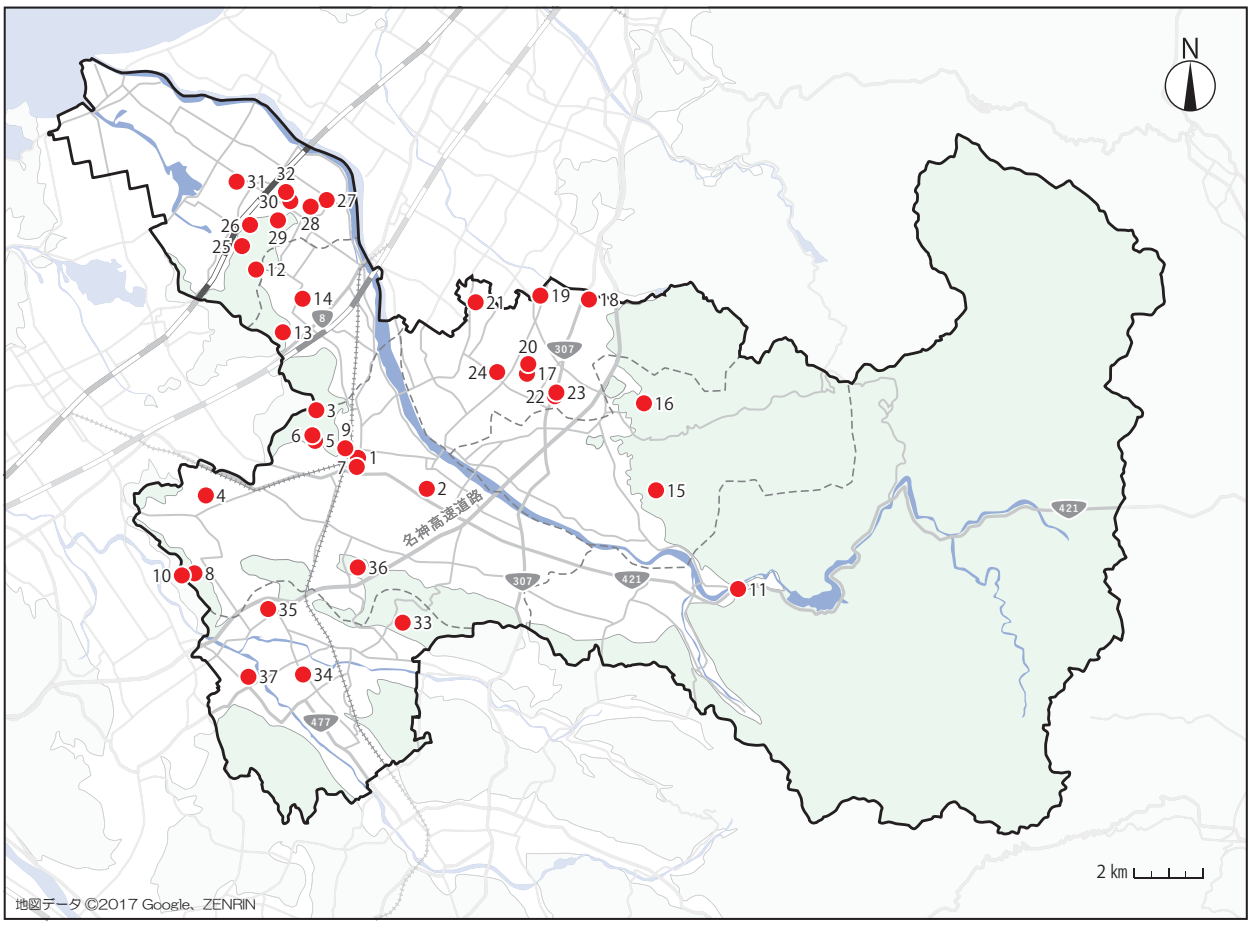
百済寺（百済寺町）

このように、湖東東部のこの地域は、多くの渡来人の移住により異文化が絶えず導入され、技術や新たな文化を受け入れることで発展を重ねてきた土地であったといえる。

表 4-1　主な文化財とテーマとの関連性

主な文化財		テーマとの関連性
1	市神神社（八日市本町）	聖徳太子が自ら事代主命の像を刻み、商いの道を教えたとされる。近江七福神の一つ「市宮ゑびす」として信仰を集める。「八日市場市神之略本記」を所蔵
2	金貝遺跡（野村町）	奈良時代から平安時代の集落遺跡。灌漑用水路と大形掘立柱建物が出土
3	瓦屋寺（建部瓦屋寺町）	推古元年（593）に聖徳太子によって建立されたと伝わる。寺名の由来は、聖徳太子が四天王寺建立時に寺の土を用いて瓦を焼かせたという伝承による。
4	浄土屋敷遺跡（上平木町）	縄文時代晩期の埋甕、古墳時代後期と室町時代前期の集落跡が出土
5	成願寺（小脇町）	聖徳太子草創の寺院。本尊の聖観音立像は聖徳太子の母の姿を模したものとされる。
6	太郎坊阿賀神社（小脇町）	1400 年前に創祀され、聖徳太子が霊験あらたかだと祈願したと伝える。
7	野々宮神社（八日市金屋一丁目）	延暦 2 年（783）に創建。聖徳太子が自ら彫刻したとされる子安延命地蔵尊を祀っていた。
8	八幡社古墳群（中羽田町）	古墳時代後期の古墳群
9	松尾神社（八日市松尾町）	瓦屋寺の別院、延命山尊勝寺の鎮守社。庭園は市指定史跡
10	雪野山古墳（中羽田町、上羽田町）	古墳時代前期（4 世紀前半）の前方後円墳。石室内からは銅鏡をはじめ漆製品など多数出土している。
11	相谷熊原遺跡（永源寺相谷町）	縄文時代草創期の集落遺跡。竪穴住居跡 5 棟と国内最古級の土偶 1 体が出土。近畿地方で縄文時代草創期の集落跡が見つかるのは初めてで、この時代の近江と鈴鹿の交流を探る上で貴重な遺跡
12	石馬寺（五個荘石馬寺町）	推古 2 年（594）に聖徳太子により建立されたと伝わる。伝承によれば、聖徳太子が当地を訪れ山上から戻ってくる際、木につないでおいた馬が石化して池に沈んでいたことから石馬寺と号したという。太子の筆と伝わる木額や太子馬上像などを所蔵。登山口付近には、石馬が背中を見せる蓮池がある。
13	乾徳寺（五個荘川並町）	推古 2 年（594）聖徳太子の開基と伝わる。
14	浄栄寺（五個荘金堂町）	寺伝によると、聖徳太子が不動坊という僧（不動明王）を祀るため不動院を建立した。不動院退転後に浄栄法師が再興し現在の浄栄寺となる。
15	東光寺（平尾町）	聖徳太子の開創と伝えられる。
16	百済寺（百済寺町）	聖徳太子が百済国の「龍雲寺」を模して創建したと伝わる。
17	大沢（大沢町）	聖徳太子が地蔵を見つけたとされる場所
18	湖東地域の群集墳（上蚊野古墳群・平柳古墳群）（平柳町）	古墳時代後期（6 世紀後半）の古墳群
19	小八木廃寺（小八木町）	奈良時代の寺院跡。白鳳時代の瓦が出土
20	地蔵院（長白寺）（大沢町）	寺伝によると、聖徳太子が瓦屋寺から百済寺へ向かう途中、地中から光明が放たれているのを見つけそこを掘らせたところ、石の地蔵が出現し、それを祀ったのがはじまりと伝える。
21	勝堂古墳群（赤塚古墳・弁天塚古墳・おから山古墳・行者塚古墳）（勝堂町）	6 世紀後半頃の愛知川中流域の右岸で最大の古墳群。被葬者は渡来人か豪族と推測される。勝堂古墳群から出土したとされる家形石棺材がある。
22	ハナノキ（南花沢町）	聖徳太子が昼食の際使用した箸に仏教繁栄の誓いを立て、自ら地面に挿しものが成長しハナノキになったといわれる。
23	ハナノキ（北花沢町）	聖徳太子が昼食の際使用した箸に仏教繁栄の誓いを立て、自ら地面に挿しものが成長しハナノキになったといわれる。
24	横溝北の笑堂（溜池）（横溝町）	笑堂という名の溜池の堤下にあった松の木に太子が馬をつなぎ、飼葉を与えた。残った飼葉の豆からできた横溝納豆が太子から村人へ伝えられ、現在でも横溝町では納豆が作られている。

主な文化財		テーマとの関連性
25	安楽寺（能登川町）	寺伝によると、聖徳太子が近江に建てた四十八寺院の第 1 番目といわれる。
26	繖山北・北西麓古墳群（佐野町、猪子町、能登川町、伊庭町）	佐野山古墳群、善勝寺裏山遺跡、善勝寺遺跡、山面古墳群、西山古墳群、能登川北山古墳群、望湖古墳群、安楽寺古墳群からなる。
27	正楽寺遺跡（神郷町、種町）	縄文時代後期の集落遺跡。土面などの祭祀関連遺物が出土している。
28	神郷亀塚古墳（神郷町、長勝寺町）	弥生時代後期（3 世紀後半）の前方後方墳
29	善勝寺（佐野町）	聖徳太子の草創、開基は太子の叔父良正と伝わる。当初は釋善寺と号したが後に坂上田村麻呂が帰依し、東国平定の戦に勝利したことから善勝寺と改称
30	斗西遺跡（佐野町、神郷町）	弥生時代から平安時代の集落遺跡
31	能登川石田遺跡（山路町、林町）	弥生時代末から古墳時代初期の環濠集落遺跡。青銅器製作の道具も出土
32	法堂寺廃寺跡（佐野町）	出土瓦から 7 世紀後半の創建と推測される。
33	石塔寺（石塔町）	聖徳太子の創建とされる。伝承によれば、聖徳太子は近江に四十八寺院を建立し、石塔寺は満願の寺院で本願成就寺と称したという。
34	市子遺跡（市子殿町、市子松井町、上南町、合戸町）	縄文晩期、奈良時代、平安時代の集落遺跡
35	木村古墳群（天乞山古墳・久保田山古墳）（川合町、木村町）	古墳時代中期の 5 世紀代の古墳群
36	八日市壺焼谷遺跡（芝原町）	7 世紀末から 8 世紀初頭にかけての須恵器窯跡 2 基と灰原、竪穴建物跡を検出
37	宮井廃寺跡（宮井町）	7 世紀後半に有力氏族により創建



凡例　● 関連文化財

図 4-1　関連文化財群の分布図

⑵「蒲生野と天智朝の万葉文化」

【テーマ概要】

斉明６年（660年）、百済が新羅・唐に敗れ、滅亡した。翌年、斉明天皇は百済の復興を図るため、兵士たちが船出する筑紫に行幸した。しかし、斉明天皇は兵士を派遣する前に筑紫の朝倉宮で没した。そこで、皇太子の中大兄皇子が政務を執った。

天智２年（663年）、日本・百済軍と新羅・唐軍が白村江で戦い、日本・百済軍は敗北した。その後、新羅・唐軍が日本に侵攻することが危惧される状況となり、これに対処する軍事的な対応が大きな課題になった。そこで、天智天皇は百済から渡ってきた遺臣らの指導のもと、対馬に金田城、筑紫に水城、大野城、瀬戸内海沿岸に屋嶋城、大和と河内の境に高安城などの山城を築き、防御体制がとられた。

一方、天智６年、都は飛鳥から琵琶湖西岸の大津宮に遷された。滅亡した百済からは、余自信や鬼室集斯など多くの百済人らが日本へ渡ってきた。これらの百済人は、近江の神崎郡や蒲生郡に居住し、余自信、鬼室集斯は近江朝の官人として重用された。

近江には、大津市の崇福寺、穴太廃寺、南滋賀廃寺にみられるように、基壇外装に瓦積基壇が導入され、また、百済で広まっていた弥勒信仰が盛んになった。

大津宮へ遷都した翌年の天智７年、天智天皇をはじめとする宮廷人らが蒲生野を訪れた。蒲生野は雪野山の東、布引山と布施山の北、瓶割山、船岡山、箕作山の南、そして愛知川の西に広がる広大な野であった。ここに５月５日の行事として、天智天皇、大海人皇子、藤原鎌足ら多くの官人官女による薬猟が行われた。そのときに大海人皇子と額田王との間で交わした歌

「茜さす　紫野行き　標野行き　野守は見ずや　君が袖振る」

「紫の　にほへる妹を　憎くあらば　人妻ゆゑに　我れ恋ひめやも」

が『万葉集』に収録されている。

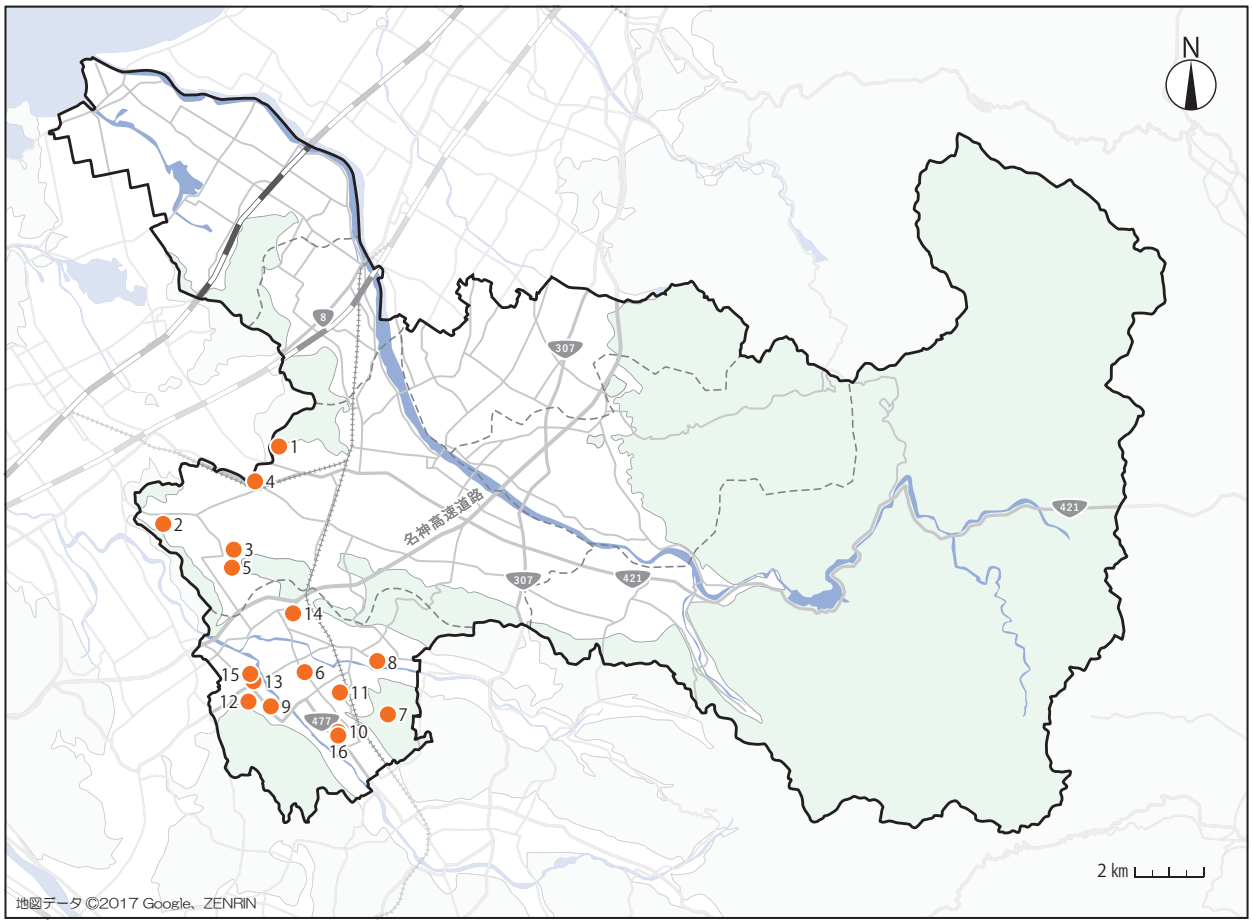
また『日本紀略』にも、天智天皇が宮都造営の意図で蒲生野近くの匱迮野を訪れたことや、桓武天皇が参議紀勝長を派遣して蒲生野に行宮を造らせ、行幸した際に山々が麗しく平坦な野が広がる景色を称えたことが記されている。

船岡山の万葉歌碑

蒲生野遊猟図のレリーフ

表 4-2　主な文化財とテーマとの関連性

主な文化財		テーマとの関連性
1	金柱の宮跡（小脇町）	「梁塵秘抄」の歌にその名が出るなど、狛の長者が建てた仏堂跡といわれる。平安から室町時代には近在の村人が参詣に来る名所であり、村人の信仰を集めていた事が伝えられている。
2	下羽田遺跡（下羽田町）	蒲生野一帯に形成された縄文時代から奈良時代の集落跡
3	登り道遺跡（上羽田町）	蒲生野一帯に形成された古墳時代から奈良時代の集落跡
4	船岡山（野口町、糠塚町）	狭義の蒲生野の中心地といわれており、薬狩りで額田王と大海人皇子が詠んだ歌が万葉歌碑として建立されている。
5	内堀遺跡（上羽田町）	蒲生野一帯に形成された弥生時代から鎌倉時代の集落跡
6	市子遺跡（市子殿町、市子松井町、上南町、合戸町）	弥生時代から室町時代の集落跡
7	岡本遺跡（蒲生岡本町）	白鳳時代の窯跡
8	綺田廃寺（蒲生寺町）	湖東式軒丸瓦と指頭圧痕重弧紋軒平瓦が出土することから、渡来系氏族の朴市秦造氏によって創建、７世紀の第４四半期の建立と推測される。
9	蒲生堂遺跡（蒲生堂町）	古墳時代から鎌倉時代の集落跡・寺院跡
10	赤人寺（下麻生町）	養老年間（717～724）に万葉歌人山部赤人によって創建されたと伝わる。
11	杉ノ木遺跡（大塚町、市子松井町、田井町）	縄文時代から室町時代の集落跡
12	辻岡山瓦窯（宮川町）	宮井廃寺の瓦窯。２号窯跡は桶巻き作りと一枚作りの平瓦が出土。８世紀の早い段階での須恵器を伴う。
13	野瀬遺跡（宮井町、蒲生堂町）	宮井から蒲生堂地先にかけて所在する弥生時代から鎌倉時代にわたる複合遺跡。寺院に関する墨書土器が出土
14	本郷遺跡（川合町）	奈良時代から鎌倉時代の集落跡
15	宮井廃寺（宮井町）	湖東式軒平瓦が出土。７世紀に造営された百済系渡来豪族の寺院と推測される。
16	山部神社（下麻生町）	万葉歌人山部赤人が生涯を閉じた地と伝わる。赤人廟碑が境内にある。



凡例　● 関連文化財群

図 4-2　関連文化財群の分布図

⑶「佐々木六角氏・観音寺城と今堀惣村文書の中世文化」

【テーマ概要】

佐々木氏は、奈良時代から平安時代にかけて湖東で勢力をふるっていた佐々貴山君氏と、平安時代中期頃から近江の佐々木荘（近江八幡市）を本貫とする宇多源氏に分かれるといわれる。宇多源氏はやがて佐々木氏を名乗るようになって次第に佐々貴氏と同化していったと考えられる。

源平の争乱を経て近江における地位を不動のものにした佐々木氏は、その後数百年にわたり守護職を世襲した。13 世紀の半ば、佐々木泰綱が近江守護として京都の六角東洞院に宿所を構えたことから、六角氏を名乗るようになった。

室町時代に入り、京で応仁の乱が起こると、戦乱はやがて地方に波及し、各地の守護大名が東西両軍に分かれて争った。この頃、観音寺城に入城していた当主六角高頼は山名宗全率いる西軍に加わったが、一族内で対立関係にあった佐々木政堯は細川勝元が率いる東軍に加わった。

応仁の乱が収束すると、各地で守護や国人が寺社領や公家の荘園などを押領して勢力を拡大する動きが強まった。六角高頼も奉公衆の所領や寺社本所領の押領を繰り返していたが、長享元年（1487 年）、奉公衆からの訴訟をきっかけに室町幕府は六角氏討伐の兵を挙げた。高頼は近江守護職を罷免され、二度にわたる討伐を受けたがそれを免れ、やがて赦免されて近江守護職に再任された。その後、六角氏の有力家臣であった伊庭氏や後藤氏との争いもあり、領主としての六角氏と家臣との主従関係は徐々に危ういものとなっていった。戦国時代も終わり頃、信長が近江に進出を始めると、六角義賢・義治父子は戦わずして観音寺城を退去し、六角氏の残党は信長により一掃され、近江は信長により平定された。

また、民俗学的にみると、旧八日市市周辺は日本史研究の上で中世の自治体組織である惣村が非常に発達した地域として知られている。今堀日吉神社文書は惣村史研究の基本史料であるが、蛇溝町や中野町などの周辺村落にも惣村史料が残されている。惣村とは、中世後期に出現した自治的な村落で近世村落の先駆的な存在である。そこにみられる強い村落結合は後の村落生活にも大きな影響を与えた。村落の境界に注連縄をつる勧請吊りや、情報伝達のための太鼓櫓、氏神での宮座の祭りなどはその顕れである。また、いくつもの村落が結集して行われる郷祭りは、本市の民俗行事最大の特色といえる。

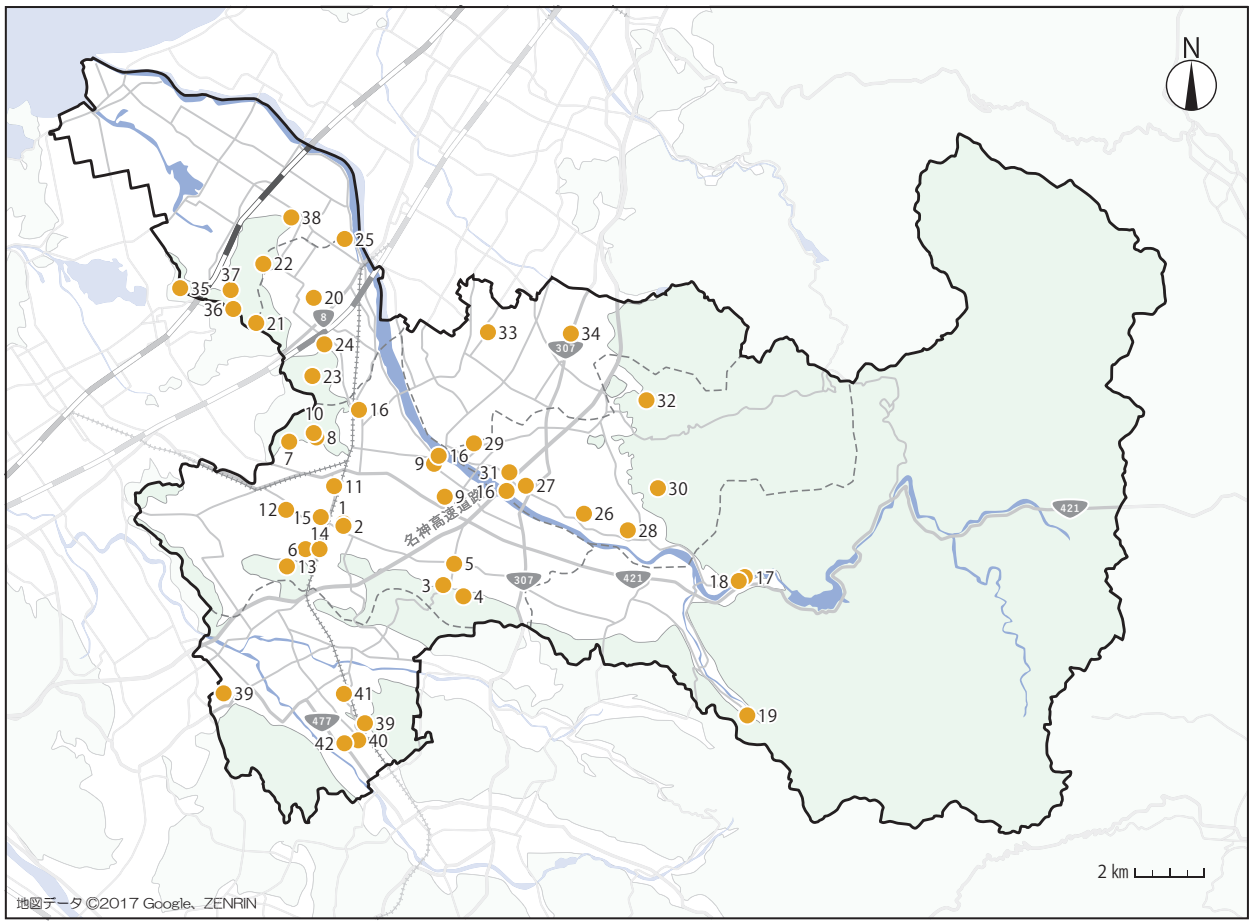
日吉神社（今堀町）

ケンケト祭り

表 4-3　主な文化財とテーマとの関連性

主な文化財		テーマとの関連性
1	今堀日吉神社文書（今堀町）	地域史、宮座を中心とする惣結合の実態や保内商人の活動の詳細などを伝える。
2	日吉神社及び今堀の景観（今堀町）	日吉神社を中心に古い町並みが残っている。
3	大森神社と宮座組織（大森町）	神社祭祀の組織。宮座は当屋制を基本としながら、年齢階梯制、「宮衆」「宮年寄」あるいは「十人衆」などと称される長老組織が顕著にみられる。
4	大森城遺跡（大森町）	佐々木六角氏の家臣、布施藤九郎公保の居城と伝えられる。
5	大森陣屋遺跡（大森町）	出羽山形藩最上氏が置いた陣屋。旧陣屋表門が石塔寺の山門に、旧玄関が長福寺本堂玄関に移築
6	後藤館跡（中羽田町）	近江守護佐々木六角氏の重臣、後藤氏の在地居館跡
7	佐々木館跡（小脇町）	小脇館跡が近江守護職佐々木家の館跡と考えられ、観音寺城が築城されるまでの本貫地であった。
8	成願寺（小脇町）	延暦 18 年（799）に最澄によって開かれた天台宗寺院。佐々木氏の祈願寺として寺領の寄進を受け、隆盛時には 75 坊を有していた。元亀（1570 ～ 1573）の兵火により行万坊、石垣坊の 2 坊のみが残る。
9	太鼓櫓（妙法寺町、神田町など）	太鼓の打ち方によって火災や水害、集会の知らせなどに使われた、合図のための施設。旧八日市市内には 7 基残る。
10	太郎坊阿賀神社（小脇町）	勝運の神として源義経や佐々木六角氏らの尊崇を集めた。
11	中野町共有文書（中野町）	惣村の存在や活動を示す文書
12	西市辺の宮座行事ならびに薬師堂裸おどり（市辺町）	神社祭祀の組織。宮座は当屋制を基本としながら、年齢階梯制、「宮衆」「宮年寄」あるいは「十人衆」などと称される長老組織が顕著に見られる。
13	布施山城遺跡（布施町）	佐々木六角氏の家臣、布施氏が築城。永禄 11 年（1568）織田信長の近江侵攻で落城した。
14	布施神社（布施町）	貞応 3 年（1224）創建で慶長年間（1596 ～ 1615）に現在地に移転。本殿は鎌倉時代後期の創建で重要文化財
15	蛇溝町共有文書（蛇溝町）	惣村の存在や活動を示す文書
16	郷祭（御河辺祭り、春日祭り、建部祭りなど）	複数の村落が集まって営む祭礼。近江湖東地方の特色で、村落間の共有用水などのつながりや、村落間の関係性を再認識するといった目的の祭りであると考えられている。
17	永源寺（永源寺高野町）	康安元年（1361）に、佐々木氏頼が寂室元光に帰依し、土地を寄進し伽藍を創建したことが始まり。
18	永源寺周辺道標（永源寺相谷町）	八風街道に設置
19	甲津畑城遺跡（甲津畑町）	千草街道を押さえる地に速水氏が築城。室町時代、速水氏は六角氏に、後は信長に仕えた。
20	大城神社（五個荘金堂町）	聖徳太子が小野妹子に命じてこの地に金堂寺を建立し、その鎮守のために造営したと伝えられる。
21	観音寺城跡（五個荘川並町）	繖山に築かれた佐々木六角氏の居城。15 ～ 16 世紀にかけて築かれた。各所に石垣を持つ郭を配した山城で、中世五大山城の一つに数えられる。
22	地獄越え（北須田町、五個荘川並町）	観音寺城落城の際、逃げ惑う六角勢の様子が地獄のような惨状であったことに由来するという。
23	箕作城遺跡（五個荘山本町）	佐々木政堯が六角高頼に対抗して築城。永禄 11 年（1568）織田信長の近江侵攻で落城した。
24	百々矢神社（五個荘山本町、伊野部町）	永享元年（1429）の箕作城築城の際、箕作家が代々弓矢の神を信仰していたため創建したという。
25	和田山城遺跡（五個荘和田町、神郷町）	観音寺城の支城として、佐生城と相対峙する形で六角義治により築城
26	青山城遺跡（青山町）	愛知川右岸に築城された佐々木六角氏の家臣、青山氏の居城
27	井元城遺跡（妹町）	信長の鯰江城攻略に伴う陣城に目されている。

主な文化財		テーマとの関連性
28	小倉城遺跡（小倉町）	清和源氏の末裔、小倉景実が承暦年間（1077 ～ 1080）に築城
29	上岸本城遺跡（上岸本町）	室町時代、高岸四郎範高、岸本左馬允築城。信長の鯰江城攻略時の付城の一つと伝わる。
30	東光寺（平尾町）	聖徳太子の開創と伝えられる。恵心僧都が入寺して天台宗となり、後に佐々木氏の崇敬を受けた。
31	鯰江城遺跡（鯰江町、中戸町）	八風街道、高野街道を押さえる地に佐々木六角氏の重臣、鯰江氏が築城。信長の近江侵攻に対抗した六角氏最後の砦
32	百済寺（百済寺町）	聖徳太子が百済国の「龍雲寺」を模して創建と伝わる。信長により焼き討ちにあう。
33	押立神社（北菩提寺町）	開基は奈良時代後期、大門と本殿は南北朝時代の建立で国の重要文化財
34	八幡社（平柳町）	天文年中（1532 ～ 1555）、六角定頼が勧請したという。
35	安土城跡（南須田町、きぬがさ町）	標高 199m の安土山一帯にある織田信長の居城跡。天正 4 年（1576）から約 3 年の歳月をかけて完成
36	繖山	近江八幡市（旧安土町）と東近江市（旧能登川町、旧五個荘町）にまたがる標高 432m の山
37	五十余州神社（南須田町）	観音寺城落城の際、須田川原で自害した佐々木氏の家臣 50 余人の霊を祀る。
38	佐生城遺跡（五個荘日吉町、佐野町）	観音寺城の支城、城主は佐々木六角氏の重臣、後藤但馬守
39	ケンケト祭り（宮川町、蒲生岡本町、上麻生町など）	毎年 5 月 3 日に開催される竜王町山之上と旧蒲生町宮川の合同のお祭り。水口で戦っていた信長軍に地元の人々が従い、甲を脱いだ姿を再現したといわれ、派手な友禅模様の着物で長刀踊りを奉納し、踊りを囃す音頭から「ケンケト祭り」といわれる。
40	高木神社（蒲生岡本町）	境内社日吉神社の本殿ともども室町時代の建立で国の重要文化財
41	八幡神社（大塚町）	延慶元年（1308）に豊前の宇佐八幡を勧請し、佐々木六角氏の家臣大塚氏が築いた大塚城の守護神としたと伝わる。
42	法雲寺（上麻生町）	本尊木造帝釈天立像は 10 世紀頃の作とされ、国指定重要文化財



凡例　● 関連文化財

図 4-3　関連文化財群の分布図

⑷「惟喬親王伝承と山の文化」

【テーマ概要】

永源寺地区を中心に伝わる惟喬親王伝承にまつわる文化財は、現在も地域の人々によって大切に守られている。惟喬親王（844 ～ 897）は文徳天皇の第一皇子でありながら皇位を継承することができず、若くして隠棲生活を送ったため詳しい後半生が伝わっていない。そのため様々な伝承が生まれた。伝承では、出家して山中に隠棲しながら読経の日々を送っていた親王が巻物になった「法華経」の紐を引いたとき、巻物の軸が回転するのを見て轆轤を考案し、その技術を里人に伝え、里人は轆轤を用いて盆や椀などをつくる木地師となったといわれている。木地師発祥の地といわれる蛭谷町や君ヶ畑町では、筒井神社、大皇器地祖神社で惟喬親王を祖神として祀っている。

また、鈴鹿山系の中でも永源寺地区とその周辺ではかつて鉱業が盛んであった。享保 19 年（1734 年）に成立した『近江與地志略』からは、佐々木六角氏による白銀探査と発掘が行われていたことがうかがわれる。「君ヶ畑共有文書」によれば、君ヶ畑村をはじめ政所、蛭谷、箕川、九居瀬、黄和田村の六ヶ畑から鉱石製錬に必要な炭が供給されていたことが記されており、これらの村々にとっては木炭が大きな収入源となっていたことが分かる。しかし、君ヶ畑の銀山は寛永年間（1624 ～ 1645）をピークに 70 年ほどで閉山となったと考えられている。

政所蓬谷鉱山の歴史は更に古く、明治時代に記された『多志田山及南河内山来歴書』によれば、永正元年（1504 年）に既に操業している。明治には大阪の実業家五代友厚が経営に携わったがやがて鉱脈がつき、明治 17 年（1884 年）に閉山となった。また、甲津畑の鉱山では銅の採掘が行われていたという。

こういった古い鉱業に関連すると思われる伝承が佐目町に伝わる。「佐目共有文書」によれば、佐目村はかつて「かねの村」といい、佐目子谷を「かねの谷」といった。かねの村が一頭の暴れ牛に襲われたときに村を救ったのが左一眼の童子である。童子は「愛知川原の石を取給ひ、御口よりほのふを出この石に吹懸け牛に投け付」けて追い払った。それ以降かねの谷を左目の童子にちなみ、「左目の人の子」の谷、「佐目子」谷と呼んだ。童子の一連の動作は鉱石の製錬工程を連想させ、一眼は長年炎を見続ける鍛冶工の職業病といわれる。佐目の若宮八幡神社の境内社は塔尾金社で、金の物に関わる神、金山姫命を祀る。

大皇器地祖神社（君ヶ畑町）

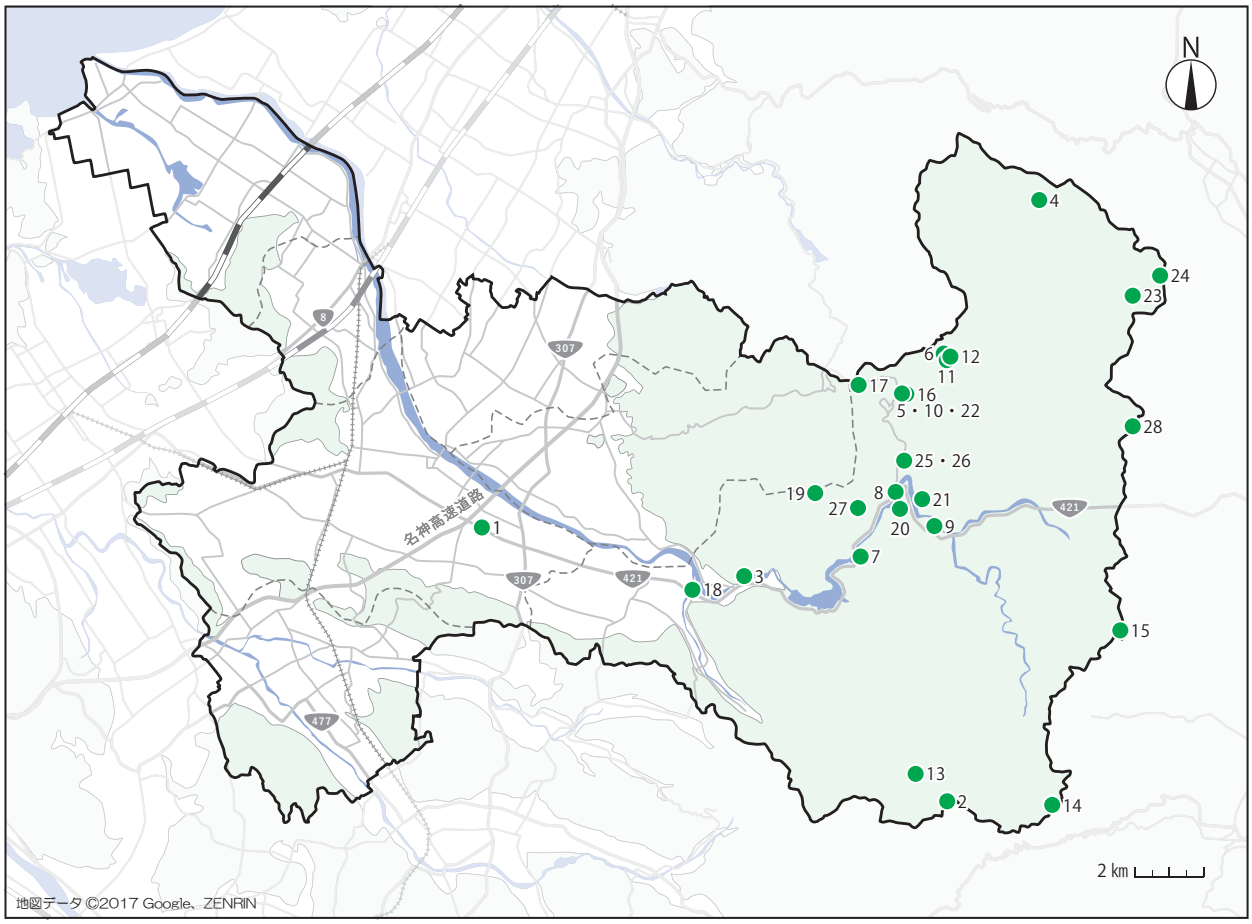
惟喬親王像（蛭谷町）

筒井神社（蛭谷町）

表 4-4　主な文化財とテーマとの関連性

主な文化財		テーマとの関連性
1	林田町夜泣き地蔵（林田町）	惟喬親王が泣いていた子どもをあやした場所に地蔵を祀ったのが始まりと伝わる。
2	雨乞岳（甲津畑町）	東近江市が設定した鈴鹿 10 座の一つ。雨乞い信仰の対象であり、かつては山上にある小さな池（大峠ノ沢）で神事が行われていた。
3	永源寺（永源寺高野町）	康安元年（1361）に、近江守護職佐々木氏頼が寂室元光に帰依し、領内の土地を寄進して伽藍を創建
4	御池岳（君ヶ畑町、茨川町）	東近江市が設定した鈴鹿 10 座の一つ。台地状に広がった山頂に多くの池があることから御池岳と呼ばれ、雨乞いの山として信仰されていた。
5	大岩助左衛門日記（蛭谷町）	筒井八幡宮の神主であった蛭谷の三十三代大岩助左衛門が元禄 8 年（1695）にまとめたもの。木地師史料としてだけでなく、中世・近世の周辺集落の様子を知ることができる貴重な資料
6	大皇器地祖神社（君ヶ畑町）	惟喬親王を祭神とし、寛平 10 年（898）創立と伝わる。明治初年までは大皇大明神と称した。
7	大瀧神社（萱尾町）	10 世紀前半の醍醐天皇の頃に創祀と伝わる。角疑魂命、天湯川桁命を御祭神とする。ダム水没前まで存在した愛知川本流の滝を大瀧明神として信仰したもの。
8	奥永源寺地区の景観	日本の原風景が色濃く残る山村と、琵琶湖の源流の一つ愛知川が流れる自然豊かな場所
9	春日神社（杠葉尾町）	明治 26 年（1893）の「神社御由緒調査書」によれば元は八幡社であったが、惟喬親王が詣でた際、春日大社に祀る比売神を勧請したと伝わる。
10	帰雲庵（蛭谷町）	貞観 7 年（865）惟喬親王が出家して素覚法親王となった際に創建。筒井八幡宮の本地堂清涼寺であった。
11	君ヶ畑町木地屋氏子狩帳（君ヶ畑町）	金龍寺（君ヶ畑町）に伝わる木地師関連資料
12	金龍寺（高松御所）（君ヶ畑町）	惟喬親王により創建と伝わる。惟喬親王が住まわれたため里人は小松畑を「君ヶ畑」と呼び、金龍寺を「高松御所」と呼んだとされる。
13	甲津畑の鉱山（甲津畑町）	君ヶ畑銀山と同時期とされる鉱山
14	御在所岳（甲津畑町）	本市が設定した鈴鹿 10 座の一つ。神崎川の源流である。
15	釈迦ヶ岳（杠葉尾町）	本市が設定した鈴鹿 10 座の一つ。名の由来は釈迦の寝姿に似ているところによる。
16	筒井神社（蛭谷町）	明治初年までは筒井正八幡宮と称し、明治中期に現在地に鎮座。貞観 7 年（865）、惟喬親王が筒井峠に八幡宮を勧請し、木地師の氏神としたことが始まりという。
17	筒井千軒跡（蛭谷町）	筒井千軒は蛭谷に残る木地師集住地に由来するといわれる地名。政所には「藤川千軒」「コセチ千軒」という地名が残る。
18	歳苗神社（山上町）	仁和元年（885）の創建、惟喬親王がこの地に来た際、現在の境内地に休憩所を設け、川辺に三柱の神を祀り五穀豊穣を祈ったとされる。
19	日本コバ（永源寺高野町、政所町）	古くから本市の人々の歴史、文化、生活に深い関わりを持っているため、鈴鹿 10 座に認定された。標高 934.1 m。鍾乳洞があり、伝説も多い。
20	八幡神社（蓼畑町）	明治初年までは若宮大明神と称した。慶長年間（1596 ～ 1615）の火災により、創祀年代を伝える資料は残っていない。
21	日枝神社のチンづくり、大般若経（黄和田町）	惟喬親王により日吉山王社分霊を勧請、社殿を創立したという。
22	蛭谷町木地屋氏子狩帳（蛭谷町）	筒井神社（蛭谷町）に伝わる木地師関連資料
23	蛇谷銀山（茨川町）	古くは天文年間（1532 ～ 1555）から操業とされる鉱山
24	藤原岳（茨川町）	本市が設定した鈴鹿 10 座の一つ。石灰岩質特有の植物が生育する。
25	政所の茶畑景観（政所町）	14 世紀中頃にこの地にもたらされた茶が、土質や気候が合ったため次第に生産が伸び、17 世紀の終わり頃には江州政所茶として高く評価されるようになった。
26	政所の能面（政所町）	政所八幡神社に伝わる能面。室町時代作のものも伝わる。

主な文化財		テーマとの関連性
27	政所蓬谷鉱山（政所町）	古くは永正元年（1504）操業の記録が残る鉱山
28	竜ヶ岳（政所町）	本市が設定した鈴鹿 10 座の一つ。名の由来は『員弁史談』に「昔この地の豪族が竜神を祀って雨乞祭をした故事によって竜ヶ岳と名付く」とある。



凡例　● 関連文化財

図 4-4　関連文化財群の分布図

⑸「愛知川扇状地と水辺の文化」

【テーマ概要】

愛知川の流域は大きく山地と平地に区分され、平地流域は丘陵、台地、段丘といった洪積台地と沖積平野に大別される。段丘上の洪積台地は水利の便が悪く、古くから多くの溜池が築造されてきた。一方、沖積平野は上流の扇状地から自然堤防地帯に入り、三角州地帯を経て琵琶湖へと至る。洪積台地に比べると水利の便がよく、古くから開発され、弥生、古墳時代の遺跡や条里制遺構がみられる。また、扇状地では愛知川沿いに10箇所以上の井堰を造り、水田の灌漑に利用されてきた。

愛知川は天井川であるため、扇端部にいくほど流水は河床に浸透して涸川になる。この地域は愛知川から多量の地下水が供給されるが、扇端部の箕作山、繖山に流動を遮られて地下で水が溜まることとなる。このため扇端部では最盛時で2,133箇所の井戸が掘られ、水田用水の補給に大きな役割を果たしてきた。現在は昭和47年（1972年）に完成した永源寺ダムにより、愛知川流域全体に用水が供給されている。

永源寺ダム

扇状地の丘陵や段丘では、人工的に溜池を造って水田に利用していた。一部は古代に開発された布施溜のようなものもあるが、その多くは江戸時代に彦根藩の勧めるところにより開発されたものである。この地域の水田開発は、耕作で使われる溜池の豊水年の余り水で行われていたため、一旦干ばつになった際の被害は甚大であった。用水の有効利用のために、排水を揚水機で溜池に戻して利用するという反復利用が行われたり、親池、小池、孫池といった形で順に貯水したり、温水池（稲作用水として利用できるように水を温める池）として利用したりするなど、様々な工夫が施されてきた。

布施溜

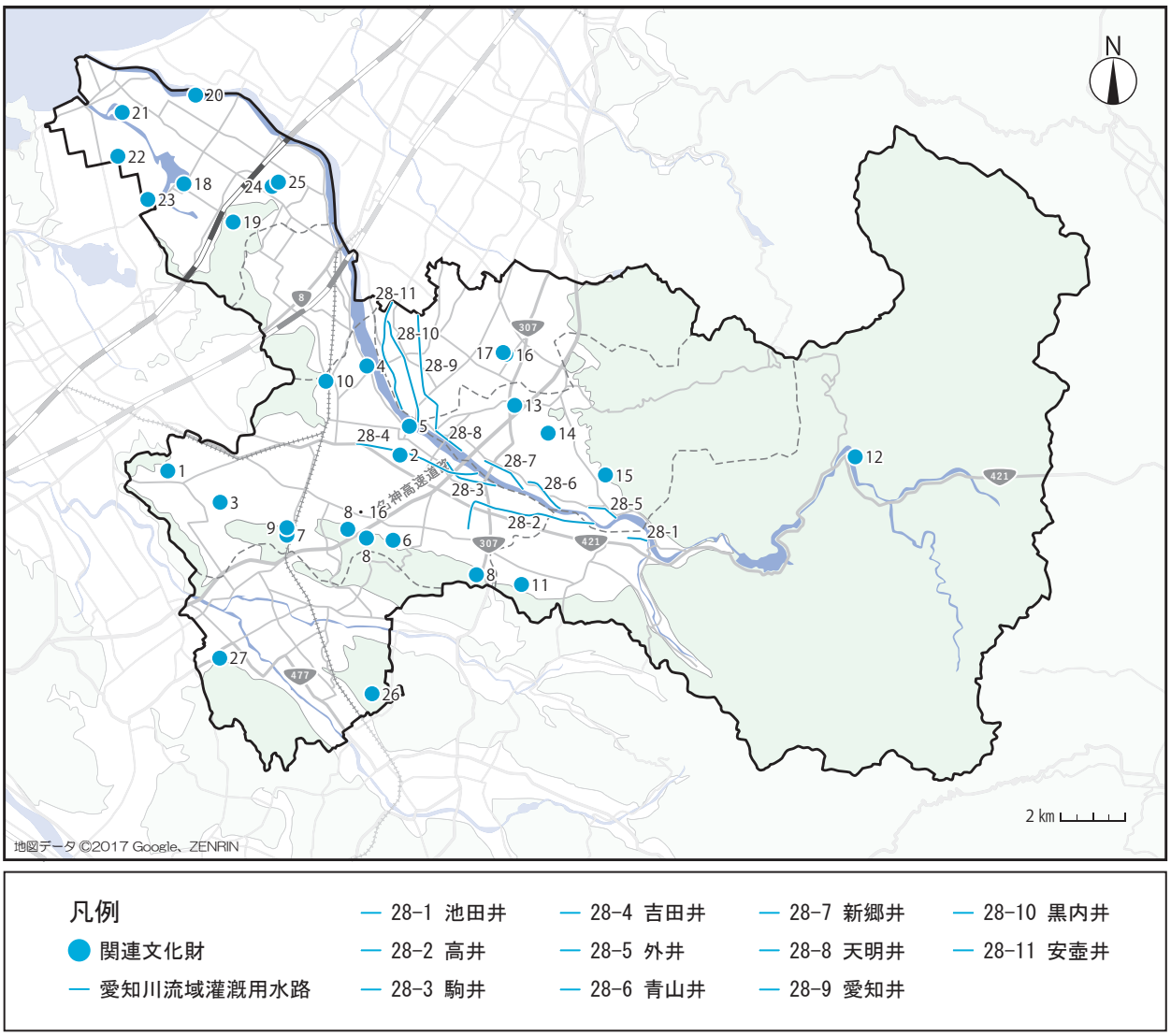
一方、下流域では水量が豊富なため、しばしば洪水の被害に見舞われた。愛知川の増水によって社殿が押し流されたという伝承を持つ神社や、大雨により３メートル以上浸水したという記録も残されている。湖岸に近い村々では集落内に水路が張り巡らされ、田舟が有効な移動手段であった。漁業はもちろん、農作業や買い物、嫁入り、葬送、祭礼にも田舟が使われるなど、湖岸に暮らす人々にとって欠くことのできない存在であった。また、内湖畔に繁茂するヨシや水生植物は、湖辺の村の生活や生業に大きな影響を与えた。

伊庭の坂下し

表 4-5　主な文化財とテーマとの関連性

主な文化財		テーマとの関連性
1	御沢神社（上平木町）	祭神に市杵嶋姫命を祀り、三つの池の霊水で信仰を集める。神社の明細帳によると、聖徳太子がこの地を訪れたときに用水の水源地として御沢をつくったと伝わる。
2	金貝遺跡（野村町）	奈良時代から平安時代の集落遺跡。灌漑用水路と大形掘立柱建物が出土。灌漑用水路は、「狛井・駒井（コマユ）」とも呼ばれる、愛知川両岸にある 10 本の用水路の一つ。
3	上羽田町北方水利組合桜場揚水機場（上羽田町）	大正 8 ～ 9 年（1919 ～ 1920）、揚水池：角形、幅 6 間、長さ 15 間、深さ 30 m、三段組石垣護岸、機械小屋：木造平屋建、切妻造、桟瓦葺
4	河辺いきものの森（建部北町）	河辺林の保存・活用を目的とする環境学習の場
5	河桁御河辺神社（神田町）	6 世紀前半に勧請。川を崇拝する祭り場を起源に持つ神社で、式内社の一つと推定されている。本殿前には国の重要文化財の六角石燈籠がある。
6	尻無の灌漑水路（尻無町）	布引丘陵を掘り貫く灌漑水路。丘陵上に布施川貯水池をつくり、丘陵下の尻無町を灌漑する。築造年代は定かではないが、明治 18 年（1885）の争論資料があることから、近世末頃には整備されたと思われる。
7	新溜（布施町）	布施溜と隣接し、水生植物やトンボ類の宝庫。「水生植物生育地保護区」に指定。築年数約 250 年
8	布引丘陵北麓の溜池群（宮溜、馬溜、庚申溜など）	宮溜：築年数約 150 年。馬溜：築年数約 150 年
9	布施溜（大溜池）（布施町）	愛知川ダムができるまで古くから利用されてきた溜池。淡海三船（722 ～ 785）が造池使として築造したという伝承がある。
10	吉住池（建部日吉町）	築年数約 250 年。箕作山に遮られた愛知川の伏流水が湧き出していたが、ダムの影響で地下水が下がり、現在湧水はない。
11	大萩溜（新出町）	築年数約 300 年
12	黄和田の灌漑水路（黄和田町）	黄和田町内に愛知川の水を引き込むため、岩盤を掘削して築いた灌漑水路。19 世紀前半に布施伝四郎によって開かれたと伝わる。その後、洪水で利用不能となっていたものを、慶応 3 年（1867）に掘削し、再び通水させた。
13	恵美須溜（池之尻町）	築年数約 120 年、その横には 9 世紀前期建立の恵美須神社が鎮座する。
14	新溜（下中野町）	築年数約 400 年
15	八反溜（小倉町）	築年数約 300 年
16	オオギ漁（八楽溜、宮溜）	オオギ型の円形漁具による江戸時代からの伝統漁法
17	八楽溜（大沢町）	江戸時代に新規開拓地の農業用水確保のため造営。「日本の溜池百選」にも選出されている。
18	伊庭の文化的景観（伊庭町）	伊庭城跡と堀、正厳寺と田舟、ヨシ原と内湖、妙楽寺と水路、妙金剛寺川とホタル、卯の刻祭りと乗降場、金刀比羅神社と港跡など。
19	伊庭の坂下し（伊庭町）	毎年 5 月に行われる、山から神が降りてくるという信仰に基づいて行われる行事。山から下ろされた神輿は伊庭郷の氏神である大濱神社横の芝原御旅所に渡御する。
20	栗見大宮天神社（新宮町）	神社文書では天文 13 年（1544）7 月の愛知川の洪水で、現在の地に流れ着いたとされる。
21	巡礼遭難供養碑（福堂町）	宝暦 5 年（1756）、宝厳寺から長命寺へ向かう霊場巡りの巡礼船が遭難、遺体は福堂村に漂着した。翌年供養碑が建てられた。
22	大中の湖干拓地（大中町）	「大中の湖」と呼ばれた琵琶湖の内湖を農業用地として干拓
23	大中の湖南遺跡（きぬがさ町）	大中の湖の干拓で発見された弥生時代中頃の史跡
24	斗西遺跡（佐野町、神郷町）	愛知川下流左岸にある古墳時代を中心とした、拠点的集落遺跡。竪穴建物跡、掘立柱建物跡が多数見つかる。畿内、山陰、北陸、東海、吉備、讃岐など各地の外来系土器が出土
25	中沢遺跡（佐野町、種町）	愛知川下流左岸にある古墳時代を中心とした、拠点的集落遺跡。竪穴建物跡、掘立柱建物跡が多数見つかる。畿内、山陰、北陸、東海、吉備、讃岐など各地の外来系土器が出土。玉作り遺構が検出された。

主な文化財		テーマとの関連性
26	伊座ヶ溜、徳円谷溜（鋳物師町）	伊座ヶ溜：築年数不明。徳円谷溜：築年数約 120 年
27	一番溜（宮川町）	築年数約 150 年
28	愛知川流域灌漑用水路	愛知川から引かれた用水施設。池田井、高井、駒井、吉田井、外井、青山井、新郷井、愛知井、天明井、黒内井、安壺井がある。



凡例
- 関連文化財
- 愛知川流域灌漑用水路
- 28-1 池田井
- 28-2 高井
- 28-3 駒井
- 28-4 吉田井
- 28-5 外井
- 28-6 青山井
- 28-7 新郷井
- 28-8 天明井
- 28-9 愛知井
- 28-10 黒内井
- 28-11 安壺井

図 4-5　関連文化財群の分布図

⑹「陸軍八日市飛行場と近代化遺産」

【テーマ概要】

本市には古くから幾筋もの街道がはしり、人、物、情報が行き交うことで発展してきた。時代とともに線路が敷かれて蒸気機関車が走り、車道が整備されて乗合いバスが人々の交通手段となり、人の移動や物流はますます盛んになった。

「ガチャコン」の愛称で親しまれている近江鉄道の歴史は古く、明治 31 年（1898 年）に彦根―愛知川間が開業している。その後に開通した八日市線の一部、新八日市―御園間は「飛行場線」とも呼ばれ、工場に大量の物資を運ぶのに貢献した。

また、大正４年（1915 年）に八日市の沖野ヶ原（春日町付近）で日本初の民間飛行場が誕生した。当初、この場所には飛行学校が開設される予定であったが、計画がうまく進まなかったため、八日市町は陸軍航空大隊の誘致へと乗り出した。埼玉県所沢、岐阜県各務原に次いで日本で３番目の陸軍飛行場設置が内定したのは大正７年のことであり、大正 11 年１月 11 日に開隊式が挙行された。

昭和 16 年（1941 年）に太平洋戦争が勃発すると、八日市飛行場には中部九十四部隊、中部九十八部隊などが駐屯した。陸軍大阪航空廠（しょう）八日市分廠（工場のこと）や気象観測所八日市測候所、八日市憲兵分遣隊などが置かれ、陸軍基地としての重要性が増していった。飛行場の近所では飛行機発着の妨げになる神社の高木が伐採され、飛行場の拡張のために水田が潰された。戦争末期には本土決戦に備えて飛行機を敵の爆撃から守るための掩体（えんたい）が造られ、布引丘陵には現在も 17 基の掩体が残されている。コンクリート製の掩体は比較的残りがよく、形状も分かりやすいため全国的にも有名であるが、土製のものや木製のドームを持つ掩体も残されている。

また、市内には数多くの近代建築が残されており、近江鉄道に関して言えば、愛知川にかけられた橋梁のトラス（三角形を基本とする構造形式）にイギリス橋梁の技術的特徴がみられる。新八日市駅舎（旧湖南鉄道本社屋）にあっては大正 11 年に建築された洋風木造建築で、現在も多くの市民に利用されている。さらに、アメリカ人建築家、W.M. ヴォーリスを代表とするヴォーリズ建築事務所設計の旧住井歯科医院、宮路医院旧病棟など、明治から昭和にかけて建築された数多くの建造物が残されている。

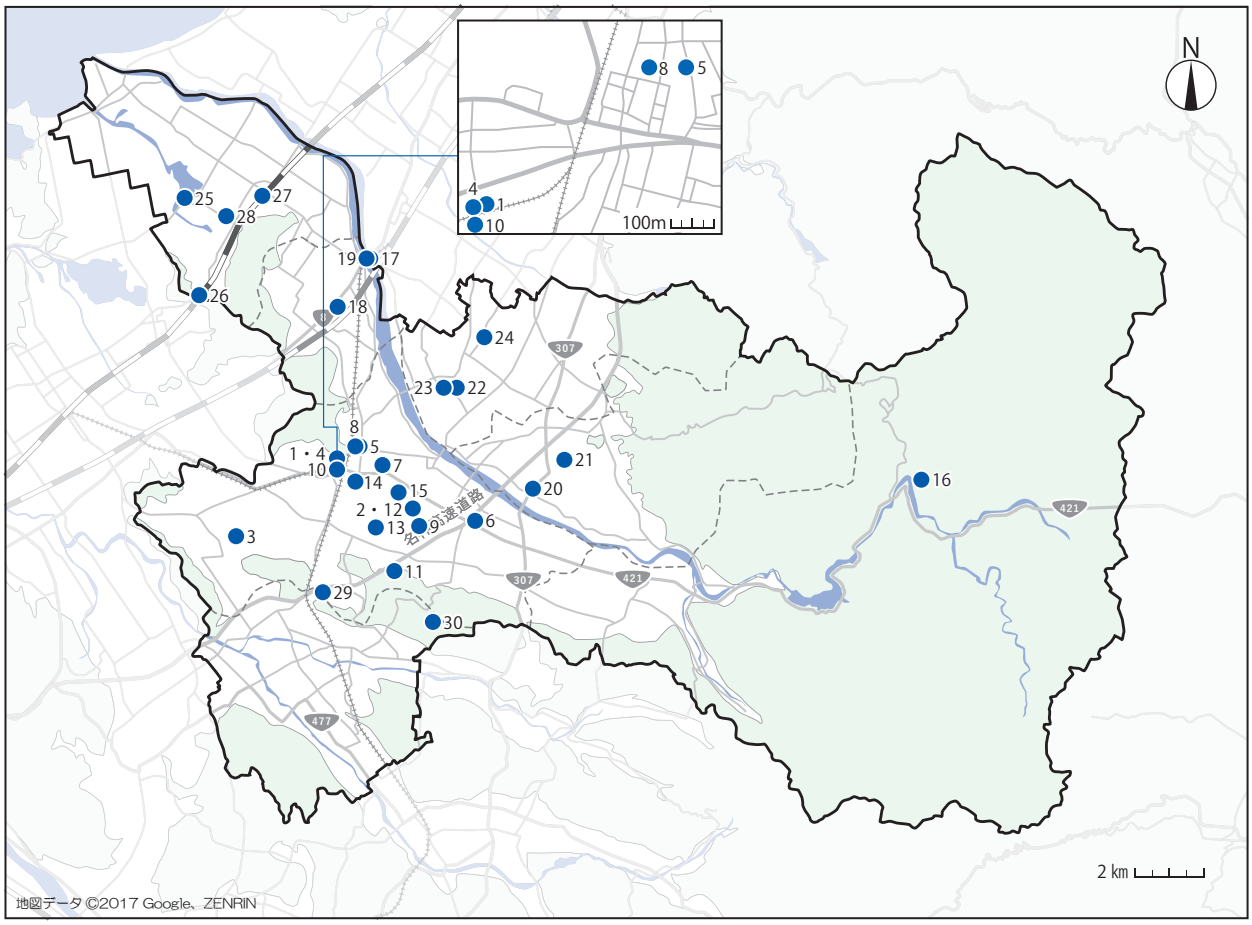
布引丘陵のコンクリート掩体

近江鉄道愛知川橋梁

表 4-6　主な文化財とテーマとの関連性

主な文化財		テーマとの関連性
1	近江鉄道新八日市駅舎（八日市清水二丁目）	旧湖南鉄道の本社屋。大正 11 年（1922）築の洋風木造駅舎
2	冲原神社（衛戍神社）（東沖野三丁目）	航空第三大隊長の後藤大佐が飛行隊の守護神として創祀
3	上羽田町北方水利組合桜場揚水機場（上羽田町）	大正 8 ～ 9 年（1919 ～ 1920）、揚水池：角形、幅 6 間、長さ 15 間、深さ 30 m、三段組石垣護岸、機械小屋：木造平屋建、切妻造、桟瓦葺
4	旧湖南鉄道（旧八日市口駅）（八日市清水二丁目）	大正 2 年（1913）に新八幡駅（現在の近江八幡駅）ー八日市口駅（現在の新八日市駅）間で開業
5	旧住井歯科医院（八日市本町）	明治から昭和初期にかけて建築された近代化遺産の一つ。昭和 5 年（1930）、木造二階建、寄棟造、桟瓦葺。設計：ヴォーリズ建築事務所。施工：井上孫治郎
6	旧御園村役場（林田町）	明治から昭和初期にかけて建築された近代化遺産の一つ。明治 41 年（1908）、木造二階建、半寄棟造
7	京都憲兵隊八日市分遣隊跡（八日市東本町）	東近江大凧会館の周辺に置かれていた。排水路の付近に「陸軍省」の境界石柱が残る。
8	招福楼（八日市本町）	明治から昭和初期にかけて建築された近代化遺産の一つ。大正頃（1912 ～ 1926）。木造平屋建、入母屋造、妻入、桟瓦葺
9	中部第九十八部隊第八航空教育隊跡地碑（妙法寺町）	碑は玉園中学校前に設置。昭和 12 年（1937）の徴集兵から飛行兵の基礎教育を実施した。
10	天理教湖東大教会旧神殿（八日市清水三丁目）	明治 26 年（1893）、木造、平屋建、寄棟造、桟瓦葺
11	布引丘陵の掩体群（柴原南町）	昭和 19 年（1944）、ドーム型、鉄筋コンクリート造、設計・施工：旧陸軍
12	飛行第三連隊の営門（冲原神社境内）（東沖野三丁目）	大正 9 年（1920）に「航空第三大隊」として結成、八日市に配属された。大正 14 年に飛行第三連隊に改称。戦後、冲原神社に移築されている。
13	平和橋（芝原町）	蛇砂川の北側（飛行場跡の開墾地）と南側（本田）を結ぶ橋
14	宮路医院旧病棟（西中野町）	明治から昭和初期にかけて建築された近代化遺産の一つ。昭和 6 年（1931）頃。主屋：木造二階建、寄棟造、桟瓦葺。付属屋：木造平屋建、切妻造、桟瓦葺。設計：伝ヴォーリズ建築事務所、施工：木屋長工務店
15	陸軍八日市飛行場（東沖野、沖野周辺）	大正 4 年（1915）頃に国内初の民間飛行場として設立。大正 9 年結成の「航空第三大隊」が 11 年に八日市に配属され「飛行第三大隊」と改称。八風街道沿いに碑が残る。
16	黄和田発電所 愛知川取水堰堤（黄和田町）	明治から昭和初期にかけて建築された近代化遺産の一つ。大正 11 年（1922）、重力式越流型表面石張コンクリート造堰堤、施工：川北電気
17	近江鉄道愛知川橋梁（五個荘簗瀬町）	明治 31 年（1898）、橋長 239m、イギリス橋梁技術の特徴をよく示す現役の鉄道橋。登録有形文化財（建造物）
18	松居家住宅洋館（旧五個荘郵便局舎）（五個荘竜田町）	明治から昭和初期にかけて建築された近代化遺産の一つ。大正 14 年（1925）、木造二階建、切妻造、ステンレス葺、設計：津田吉五郎
19	御幸橋（五個荘簗瀬町）	天保 12 年（1831）木橋が完成。橋名は無賃で渡れたことから無賃橋と呼ばれていた。
20	妹消防倉庫（妹町）	明治から昭和初期にかけて建築された近代化遺産の一つ。明治 42 年（1909）、木造平屋建、切妻造、越屋根付、桟瓦葺
21	滋賀県平和祈念館（下中野町）	滋賀県民の戦争体験を語り継ぎ、平和の尊さを学ぶ拠点として平成 23 年（2011）に旧愛東町役場を改修して開館
22	株式会社金壽堂事務所（長町）	明治から昭和初期にかけて建築された近代化遺産の一つ。昭和 23 年（1948）、木造二階建、半寄棟造、桟瓦葺、設計：田中建築事務所、施工：木澤善輔
23	共澤館（小田苅町）	明治から昭和初期にかけて建築された近代化遺産の一つ。大正 15 年（1926）、木造平屋建、入母屋造、妻入、桟瓦葺、車寄、入母屋造、桟瓦葺
24	錬成館（旧西押立国民学校講堂）（北菩提寺町）	明治から昭和初期にかけて建築された近代化遺産の一つ。昭和 18 年（1943）、木造二階建、寄棟造、桟瓦葺、木村太兵衛

主な文化財		テーマとの関連性
25	大阪俘虜収容所第九分所（旧第二十四分所）跡（伊庭町）	戦時中滋賀県に設置された 3 箇所の大阪俘虜収容所分所で、第九分所が伊庭に置かれた。
26	旧腰越山トンネル（南須田町）	明治から昭和初期にかけて建築された近代化遺産の一つ。明治 22 年 (1889)、馬蹄形断面、坑門石造、下部切石造、アーチ部煉瓦造二連隧道
27	JR 能登川駅（林町、垣見町）	明治政府の東京ー京都間の鉄道建設計画で能登川は駅設置候補であった。明治 22 年 (1889) 開業。現在の駅舎は 3 代目
28	能登川港郵便局（能登川町）	干拓前は隣接して港があったことを示す局名
29	長谷野爆撃演習場（川合町、蛇溝町）	八日市陸軍飛行場の爆撃演習場の地。昭和 18 年 (1943)、訓練中に殉職した若者の霊を慰めるため「留魂の碑」を建立
30	陸軍射撃演習場（平林町）	昭和 17 年 (1942) につくられた陸軍の敷設。民地との境界には「陸軍」の境界杭が残る。



凡例　● 関連文化財

図 4-6　関連文化財群の分布図

⑺「近江商人と流通の文化」

【テーマ概要】

近江は京都、畿内に近く、また、鈴鹿山脈を越えれば伊勢にも通じるため、都と北国、東国とをつなぐ交通の要衝として古くから発展してきた。

市域には、中山道をはじめ八風街道や千草街道、御代参（ごだいさん）街道など多くの街道がはしるが、中でも御代参街道は東海道の土山宿と中山道の愛知川宿を結ぶ間道として整備され、八日市、岡本、石原（日野町）、鎌掛（日野町）に宿場が置かれた。街道の名は朝廷や皇族の使者が伊勢神宮からの帰りに多賀大社へ代参する際に通ったことにちなむが、それ以前は多賀道、伊勢道などと呼ばれていた。おかげ参りでは大勢の人々が利用したという記録が残り、日野や沿道の商人が関東・東北へ往来するときにも利用されていた。

陸上交通に加え、江戸時代には物資を運んだり、人が移動する手段として船が多く利用されていた。明治時代になると汽船が登場し、港が整備された。能登川港は当時大津港を起点に就航された太湖（たいこ）汽船の航路の一つに含まれていた。鉄道が敷設されるまでは湖東地域の郵便物は船を使って運ばれており、港の近くに能登川港郵便局が建てられた。能登川港郵便局の名はかつて能登川に港があったことを今に伝えている。

近江は東西南北にはしる街道や航路など、地の利を生かした商業活動が発展してきた。その歴史は鎌倉時代にまで遡る。石塔商人や小幡（おばた）商人を含む四本（しほん）商人は八風街道や千草街道を通って鈴鹿山脈を越え、伊勢との通商を行った。若狭方面との通商は小幡商人が属する五箇（ごか）商人により行われ、琵琶湖を渡った若狭の海産物が近江や京都に流通した。また、保内（ほない）商人は伊勢及び若狭方面にその活躍の場を広げた。これら中世の商人は延暦寺や守護六角氏など、時の権力者の庇護のもと、扱う品々や通行する街道に関する特権を有していた。こういった仕組みは近世の近江商人と直接的に結びつくものではないが、この頃から商業の基盤が連綿と近江の地に築かれていたといえる。

戦国時代を経て中世までの経済機構は再編されたが、商業ノウハウの蓄積などを背景に、近世の近江商人が誕生した。彼らの商法は井原西鶴が『日本永代蔵』で「鋸商ひ」と評したように、行き帰りで商品の販売、仕入を行う無駄のないものであった。また、売り手の都合だけでなく買い手が必要とするものを安く提供し、地域に貢献しようとする彼らの行動が人々に受け入れられ、他国の商人たちを席巻していった。「売り手によし」「買い手によし」「世間によし」のいわゆる「三方よし」の精神は、近江商人の商いの精神を端的に表した言葉といえる。

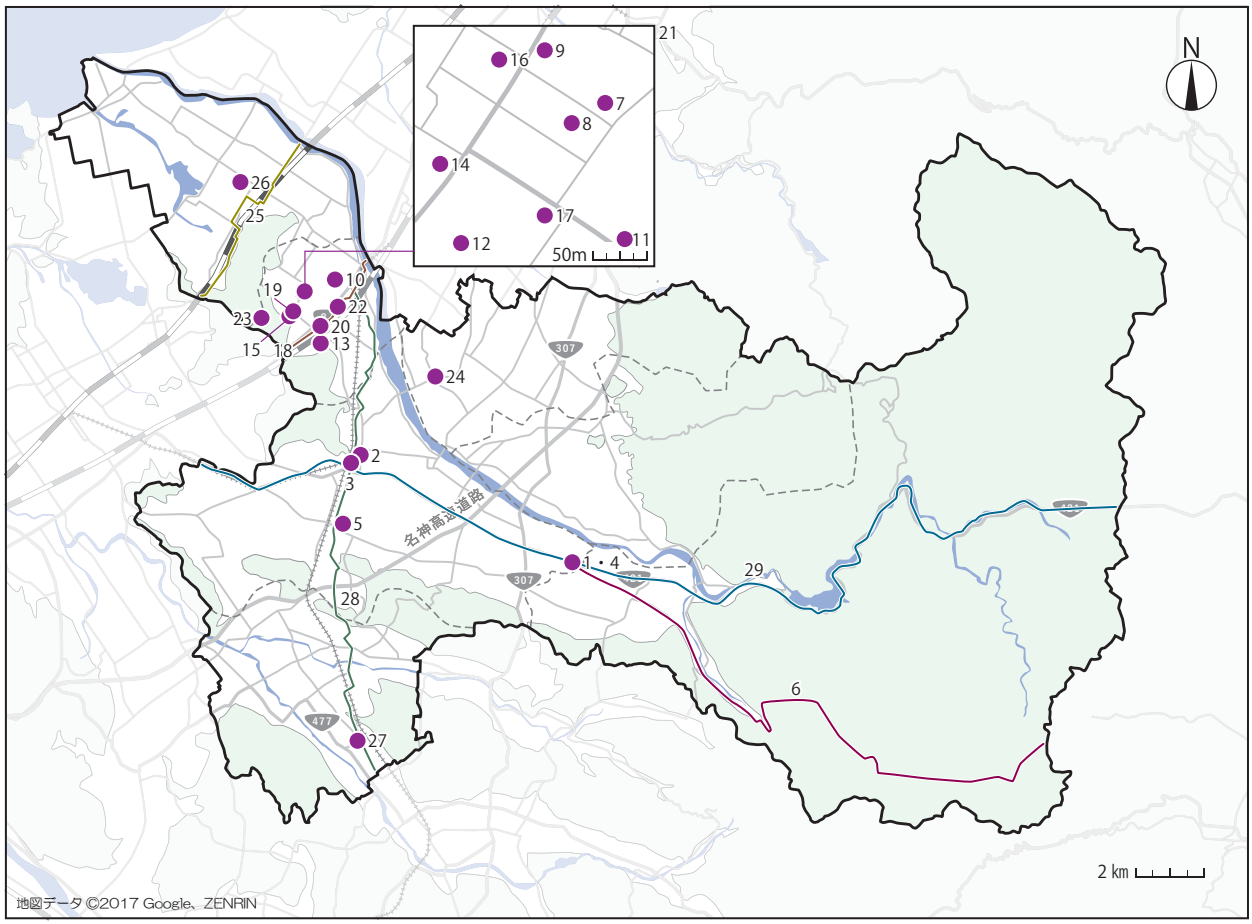
千草街道（藤切谷付近）

近江商人（『近江商人事績写真帖』より転載）

表 4-7　主な文化財とテーマとの関連性

主な文化財		テーマとの関連性
1	如来の道標（山上町）	御代参街道と千草街道の分岐点に設置
2	市神神社（八日市本町）	聖徳太子が自ら事代主命の像を刻み、商いの道を教えたとされる。近江七福神の一つ「市宮豕ひす」として信仰を集める。
3	八日市清水一丁目の道標（八日市清水一丁目）	八風街道と御代参街道の交差点に設置
4	八風街道、千草街道の分岐点の馬頭観音（山上町）	伊勢、桑名方面への通商路の分岐点に設置
5	日吉神社（今堀町）	保内商人に関する『今堀日吉神社文書』を所有している。
6	千草街道	近江商人が伊勢方面への行き来に利用
7	近江商人屋敷外村宇兵衛邸（五個荘金堂町）	旧近江商人の屋敷を利用。隆盛時には主屋、書院、大蔵、米蔵、雑蔵、納屋、大工小屋など十数棟があった。平成に入り明治期の様子を再現して平成 6 年（1994）開館
8	近江商人屋敷外村繁邸（五個荘金堂町）	旧近江商人の屋敷を利用。現代にも通用する新しい感覚で建築されており、随所に工夫がみられる。座敷の奥の蔵を利用して外村繁文学館が開設
9	近江商人屋敷中江準五郎邸（あきんど大正館）（五個荘金堂町）	旧近江商人の屋敷を利用。2 階建て切妻瓦葺の屋根で 2 棟の蔵、池泉回遊式の池などがある。
10	近江商人屋敷（藤井彦四郎邸）（宮荘町）	旧近江商人の屋敷を利用。8,155 ㎡の敷地に建物面積 710 ㎡の家屋。迎賓館として設けた客殿、スイスの山荘を模して建築した洋館、庭園などがある。
11	大城神社（五個荘金堂町）	五個荘金堂町の古い町並みに位置する郷社。7 世紀初頭の創祀と伝わる。近江守護の佐々木氏より崇敬を受ける。
12	弘誓寺（五個荘金堂町）	五個荘金堂町の古い町並みに位置する寺院。那須与一の孫、愚咄坊を開祖とする。現在の本堂は宝暦 5 年（1753）に再建された。
13	小泉家住宅（五個荘山本町）	近江商人小泉家の住宅。江戸時代末期から大正時代にかけて建築された。主屋をはじめ 14 棟が国の登録文化財になっている。
14	金堂まちなみ保存交流館（中江富十郎邸）（五個荘金堂町）	旧近江商人の屋敷を利用。江戸後期に平屋建てとして建てられ、明治 6 年（1873）外村宗兵衛により二階建てに改築、落棟、平屋のミズヤ（炊事場）、奥に二階建ての座敷が増築された。平成 20 年（2008）に「金堂まちなみ保存交流館」として再生された。
15	聚心庵（五個荘川並町）	五個荘川並町の近江商人初代塚本定右衛門の号、定聚にちなむ。
16	勝徳寺（五個荘金堂町）	五個荘金堂町の古い町並みに位置する真宗大谷派の寺院。永正 13 年（1516）持閑の開基。金堂陣屋の長屋門を移築保存
17	浄栄寺（五個荘金堂町）	五個荘金堂町の古い町並みに位置する寺院。聖徳太子にまつわる寺伝が残る。
18	中山道	江戸時代の五街道の一つ、近江商人が利用
19	八年庵（五個荘川並町）	近江商人塚本源三郎と、その母塚本さとの本宅。築 200 年以上
20	萬松園（旧市田庄兵衛家住宅）（五個荘北町屋町）	京都、大阪で江戸時代中期から呉服商を営んでいた近江商人、市田庄兵衛の本宅
21	東近江市五個荘金堂伝統的建造物群保存地区（五個荘金堂町）	近江商人の本宅群と伝統的な農家集落が並ぶ国の重要伝統的建造物群保存地区
22	松居家住宅洋館（旧五個荘郵便局舎）（五個荘竜田町）	旧五個荘郵便局舎を利用
23	紅葉公園（五個荘川並町）	近江商人の塚本仲右衛門が造園
24	近江商人郷土館（小林吟右衛門邸）（小田苅町）	旧近江商人の屋敷を利用。資料館と生活館に分かれており、資料館では、店の様子や商用具、籠や葛など旅に必要なもの、近江の歴史や変遷を伝える古文書類などを展示。生活館は座敷蔵などを利用し、当時の商人や家族、店員の生活をうかがい知る道具類、古書籍などが展示されている。
25	朝鮮人街道	中山道の「上街道」に対し「下街道」「浜街道」とも呼ばれた近世の脇街道。江戸時代、朝鮮通信使が往来したことにちなむ。

主な文化財		テーマとの関連性
26	能登川の麻織物工場があった地域（林町）	近江商人の商い品の一つ、近江上布を生産
27	高木神社（蒲生岡本町）	室町時代の建立と伝わる。御代参街道の岡本宿として神社を中心に賑わった。
28	御代参街道	中山道と東海道を結ぶ脇街道。その名称は朝廷や皇族の使者が伊勢神宮から多賀大社に代参したことに由来する。
29	八風街道	山越商人が伊勢方面への行き来に利用された。



凡例　● 関連文化財

図 4-7　関連文化財群の分布図